

大

環 廃 対 発 第 1512252 号
平 成 27 年 12 月 25 日

千葉県町内自治会連絡協議会
会長 遠山 孝行 殿

環境副大臣 井上 信治



千葉県町内自治会連絡協議会からの要望に対する回答について

貴協議会から、平成 27 年 8 月 7 日付けで御要望のありました事項につきまして、
別紙のとおり回答いたします。

(別紙)

千葉県市内自治会連絡協議会からの
要望に対する回答

平成 27 年 12 月

環 境 省

【御要望の内容】

選定手法、4つの評価の観点及び基準の設け方のいずれも妥当ではないため、候補地の選定について白紙に戻し、選定方法を改めた上で、再度選定し直すこと。

(回答)

千葉県における候補地の選定手法では、まず施設の安全等を確保するため、自然災害のおそれのある地域などをあらかじめ除外した上で、施設の設置に必要な面積を確保可能な土地を抽出しました。その後、抽出された土地の中から、地域の方々のご安心やご理解を得られやすい土地を選定するため、4つの評価項目について、評価、採点し、最高得点となった土地を詳細調査候補地に選定することとしました。

なお、4つの評価項目は、国の有識者会議及び市町村長会議でのご議論も踏まえ、地元関係者の理解を得られやすい場所を選定する観点から選定し、(1)生活空間との近接状況、(2)水源との近接状況、(3)自然の豊かさ、(4)指定廃棄物等の保管量、としました。

このように千葉県における候補地の選定手法は、地域の実情にも配慮して確定したものであり、これを見直すことは考えておりません。

また、要望理由としていただいた個別のご意見については、以下のとおり、考えをお示しします。

要望理由

<当該候補地の安全性について>

当該候補地は次のような地域であり、マグニチュード7以上の首都直下型地震が30年以内に発生する確率が70%と推測されている中、地震の被害が発生しやすい土地は候補から外すべきである。

- ・ 千葉市津波ハザードマップでは、避難対象地域である。
- ・ 千葉市地震ハザードマップでは、東京湾北部地震が発生した場合、震度6強の非常に揺れやすい地域である。
- ・ 千葉県液状化マップでは、液状化危険度が最高ランクの地区である。

(回答)

詳細調査候補地周辺地域が臨海部の埋立地であることから、津波、地震、液状化についてご不安をお持ちになられていることは承知しております。これらの災害に対しては、以下のような対策等により、十分に対処できるものと考えております。

【津波対策について】

施設をコンクリートで二重に囲んだ構造にするなど堅固なものにするだけでなく、安全に万全を期すため、詳細調査候補地の選定に当たっては、自然災害が起こりやすい地域をできるだけ避けることとし、津波については、千葉県が作成した津波浸水予測図に示された浸水想定区域をあらかじめ除外しているところです。今回選定した詳細調査候補地は、その津波浸水予測図に示された津波浸水想定区域内にはありません。

過去において千葉県に大きな津波被害を与えたと考えられている元禄地震（1703年、M7.9～8.2）を基本として、新たな知見を踏まえ、平成23年に国立研究開発法人産業技術総合研究所が提案した地震波源モデル（34枚の小断層を考慮。従来は3枚の小断層のみ）を用いたシミュレーションによると、想定される最大の津波の高さは東京湾口で10m、千葉市内で3m程度とされています（内閣府発表報告書「南海トラフの巨大地震による津波高・浸水域等及び被害想定」（平成24年8月）より）。詳細調査候補地は、東京湾平均海面より4mほど高いところにあり、津波による影響は受けないものと考えています。

なお、M7クラスの首都直下地震による津波については、東京湾内での津波高は1m以下と推計されています（中央防災会議「首都直下地震の被害想定と対策について」（平成25年12月）より）。

